

お名前	性別	満年齢	終戦時の年齢	現住所
白井 義秋 よしあき	男性	89歳 H27.8.15 現在	19歳	黒田

## 「本土防衛の要塞を築いていました」

私の戦争体験といえば、子どもの頃からの耐乏生活や銃後の守りが一番かもしれませんが、わずかな期間でしたが軍隊生活のことを話します。私は八名青年学校を卒業後、昭和20年4月10日に瓦町の豊橋工兵隊11部隊に入営しました。入隊後まもなく部隊は独立し、14320部隊大和隊となりました。終戦後の9月10日に復員しましたので、軍隊生活はわずか5ヶ月のことです。

工兵隊は、土木建築や道路建設、塹壕掘り、爆破工作などを担い、戦闘で実際に戦う歩兵・戦車・砲兵部隊を支援する能力を持っていました。豊橋工兵隊では、平地に銃撃から身を守るためのタコツボ（塹壕）を掘る訓練、戦車を食い止めるための対戦車肉攻（肉弾攻撃）訓練、鉄条網を破壊する訓練、豊川で和船に兵士を乗せて漕ぐ訓練などをしました。

6月19日に豊橋空襲がありました。高師にあった六つの兵舎のうち二つが焼夷弾で焼かれてしまいました。その時は空襲警報で防空壕に入りましたが、豊橋駅方面を見ると、空が真っ赤に染まっていた。兵舎を失った私たちは、片づけをすませると、本土防衛のために現在の田原市和地町に移動しました。その兵舎は、わらぶき屋根の掘っ立て小屋でした。床には丸太を並べ、杉の葉を敷き、その上に毛布を敷きましたが、ひどい寝心地でした。

そこでの任務は、海岸に近い山を利用して40mほどの地下壕を掘り、要塞を造ることでした。ダイナマイトで爆発させながら、三方からトンネルを掘り進むのです。爆破すれば中は大変な土煙が立ちこめますが、とにかく完成を急がなくてはなりません。艦載機の攻撃もあり、監視哨からの連絡で「空襲警報」の連絡も入りますが、私たちはひたすら作業を続けるだけです。カンテラをつけても真っ暗なトンネル内で、爆破した石のガラをトロッコで運び出すのです。水のしずくが落ちてきたり、地下水が出たりで、作業は本当に大変です。それも突貫工事ですから事故も起きます。ダイナマイトで亡くなった人もいますし、ケガをした人もいます。それでも仕事の能率が悪かったりすると、昼飯を食べさせてもらえないこともあって、みんな必死に働きました。

私たちは、トンネル内でただひたすら掘り続けるのが任務でしたから、戦争の情報は何も伝わってきませんでした。沖縄戦のことさえ知らされず、本土空襲が続いていても、まだ日本が負けるとは全く考えませんでした。アメリカの艦船が近づいてきたら、この要塞から大砲で撃沈してくれる、そんなことを考えながら

必死に作業を続けました。

8月1日、やっと荒堀が完成しました。やれやれとひと息、ささやかな完成祝いをしました。次の工程では、入口から内部にかけてコンクリートで強固に固めていきます。海に向かって砲台も築かなければなりません。私は、コンクリートの材料にする砕石やバラスを福江の港からトラックで運びました。

ある日のことです。福江港で一般の人たちがおおぜい集まっていました。何だかよく分かりませんでした。ただごとではなさそうでした。その人達に聞いてみると、日本は降伏したようなことを言っていました。私は納得ができず、そのまま戻りましたが、それが天皇陛下の玉音放送だったのです。がく然としました。それまでは、あちこちから工事や訓練の音が聞こえてきましたが、静寂に一つままれていました。本土決戦、玉砕が叫ばれ、必死に頑張ってきたのは何のためだったのかと力が抜けてしまいました。

### ○ 今にして思うこと

私たちが命をかけてやってきたことは何のためだったのでしょうか。今でこそ侵略戦争だと言われますが、戦前の教育では欧米の植民地からの開放が大義でした。大東亜共栄圏という構想のもとで、インドやビルマ、フィリピン、中国などのアジアの国々が共存共栄するための戦いだと教えられたのです。実際、インドのガンジーやチャンドラボース、中華民国の汪兆銘は、その構想に共感していました。

東京裁判でA級戦犯として処刑されたことで戦後処理が終わり、日本は平和憲法の成立と独立を勝ちとるようになります。しかし、日本が戦争への道を突き進んだのは、A級戦犯の指導者たちだけのせいではありません。私たちは、そのことはよく考えなければなりません。

今、戦後の日本を守ってきた「平和の道」が、曲がり角にさしかかろうとしています。戦争の真実を知らない政治家ばかりが国を動かすことに大きな不安を感じています。戦前生まれの人間なら、みんな同じように考えているはずですが。

だからこそ、戦争時代に体験した真実をみなさんに伝えておくことが大切だと考えたのです。戦争になれば、人が人を殺し、何人もの人が悲しむことになるのです。

そんな戦争を二度と繰り返してはなりません。



豊橋工兵隊への入営記念写真です